

## 令和5年県内労働災害発生状況分析結果

### 1. 死亡災害発生状況について（新型コロナウイルス感染症への罹患を除く）

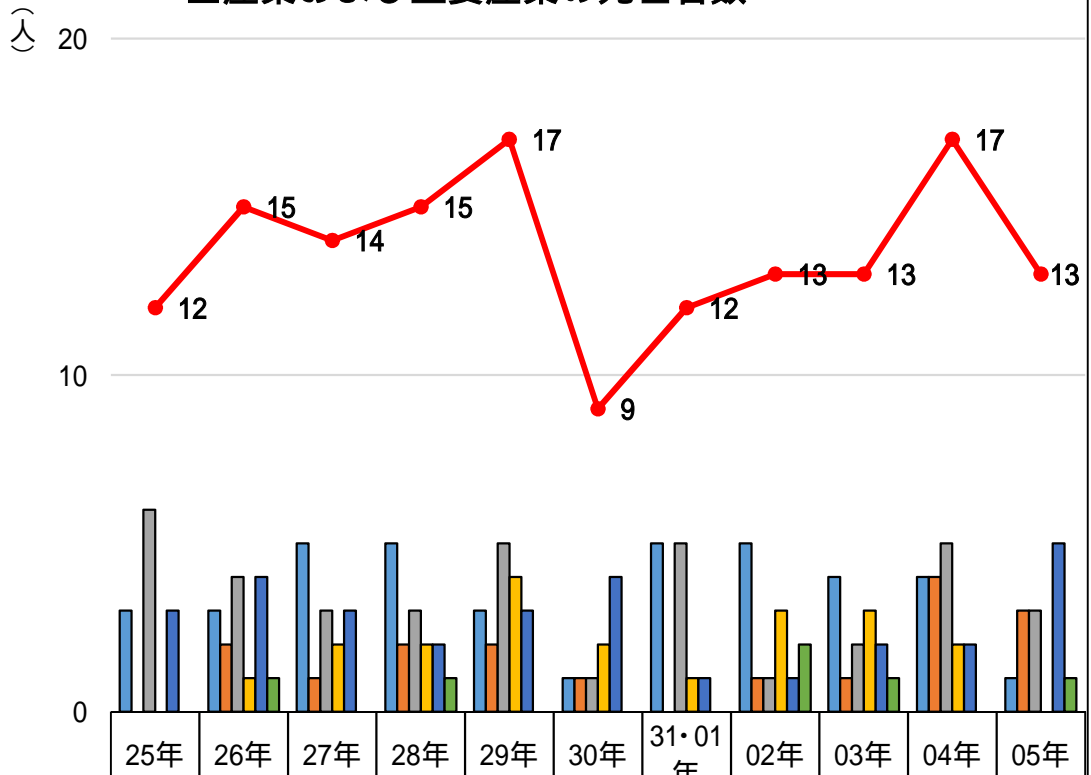
#### (1) 死亡災害発生状況の推移

令和5年の労働災害による死亡者数は13人で、前年より4人減少。

業種別では、第3次産業5人（商業2人、金融業1人、産業廃棄物処理業1人、警備業1人）、製造業と林業でそれぞれ3人、建設業と畜産業でそれぞれ1人となっている。

前年との比較では、建設業が3人減少し、林業と運輸交通業でそれぞれ2人減少、製造業で1人減少した。

全産業および主要産業の死亡者数



建設業	3	3	5	5	3	1	5	5	4	4	1
製造業	0	2	1	2	2	1	0	1	1	4	3
林業	6	4	3	3	5	1	5	1	2	5	3
運輸交通業	0	1	2	2	4	2	1	3	3	2	0
第三次産業	3	4	3	2	3	4	1	1	2	2	5
上記以外の業種	0	1	0	1	0	0	0	2	1	0	1
全産業	12	15	14	15	17	9	12	13	13	17	13

(2) 事故の型別 死亡災害発生状況 (令和5年)

令和5年に発生した死亡災害のうち、「墜落・転落」によるものが5人(38.4%)で最も多く、次いで「交通事故」3人(23.1%)、「はさまれ、巻き込まれ」2人(15.4%)と続く。



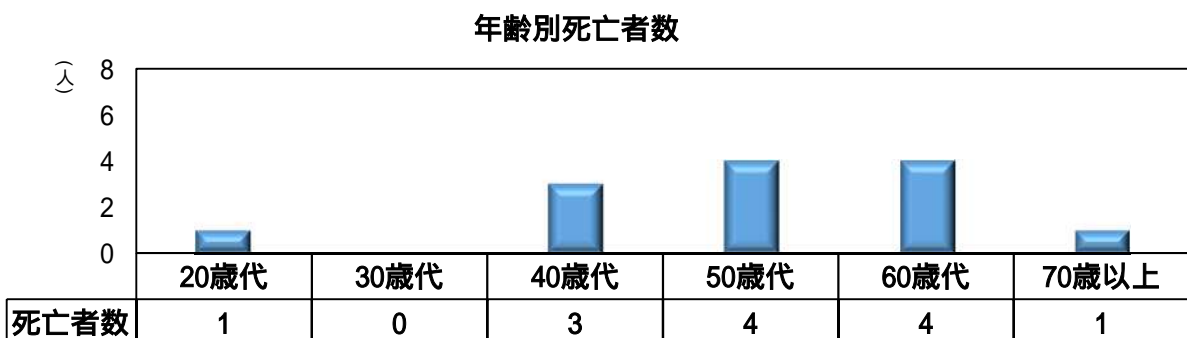
(3) 起因物別 死亡災害発生状況 (令和5年)

起因物(災害をもたらす原因となった機械、設備、環境等)別では、バイク・乗用車等の「乗物」が4人(30.8%)で最も多く、次いで「車両系木材伐出機械」2人(15.4%)、立木や地山、岩石等の「環境等」2人(15.4%)と続く。



(4) 年齢別 死亡災害発生状況 (令和5年)

年齢別では「60歳以上」が5人で、全体の38.5%を占める。



## 2. 死傷災害（死亡・休業4日以上）発生状況について

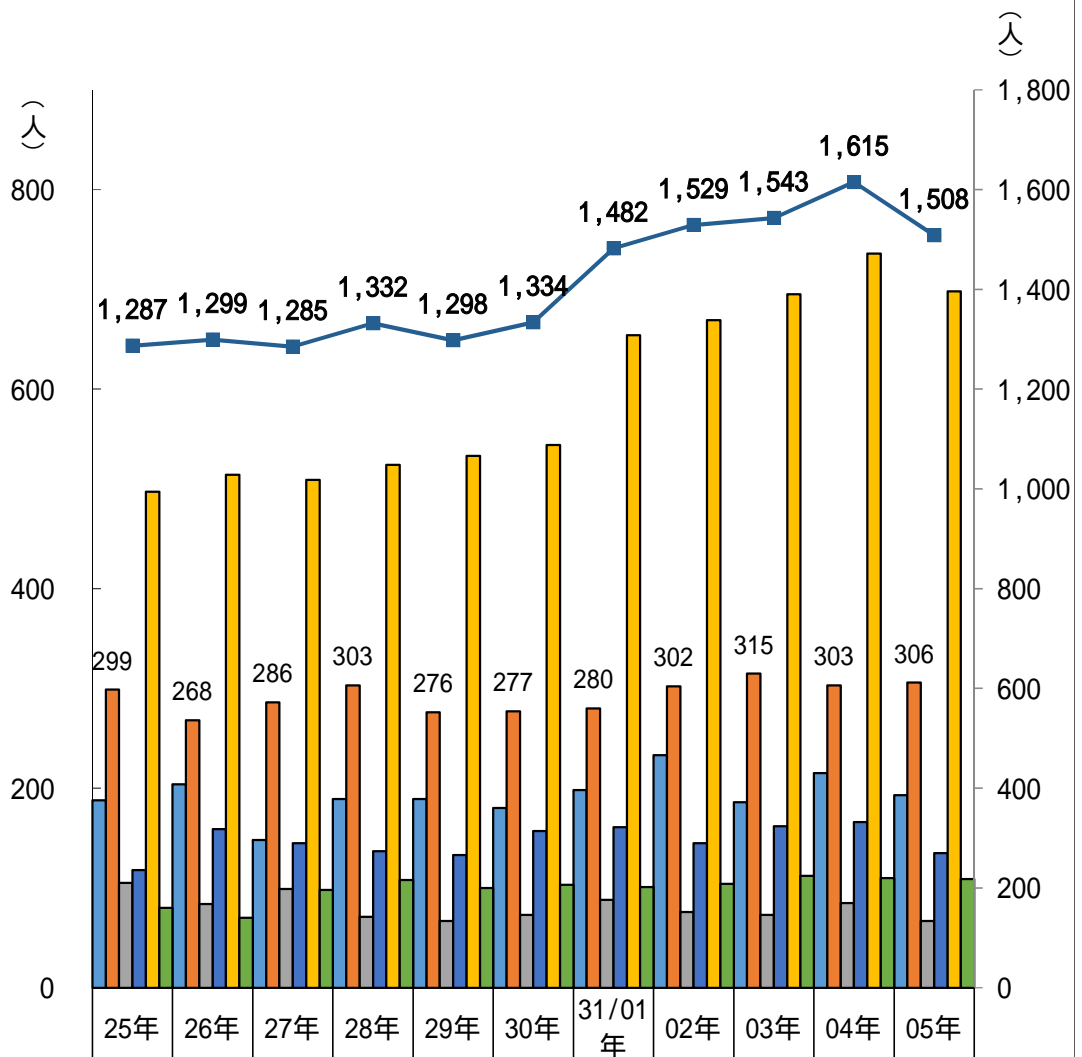
### (1) 死傷災害発生状況の推移

死傷者数は1,508人で、前年の1,615人から107人(6.7%)減少した。

業種別では第三次産業が698人(全体の46.3%)で最多。次いで製造業306人(20.3%)、建設業193人(12.8%)、運輸交通業135人(9.0%)、林業67人(4.4%)と続く。

建設業、林業、運輸交通業、第三次産業においては前年より減少、製造業については、微増(3人増)となっている。

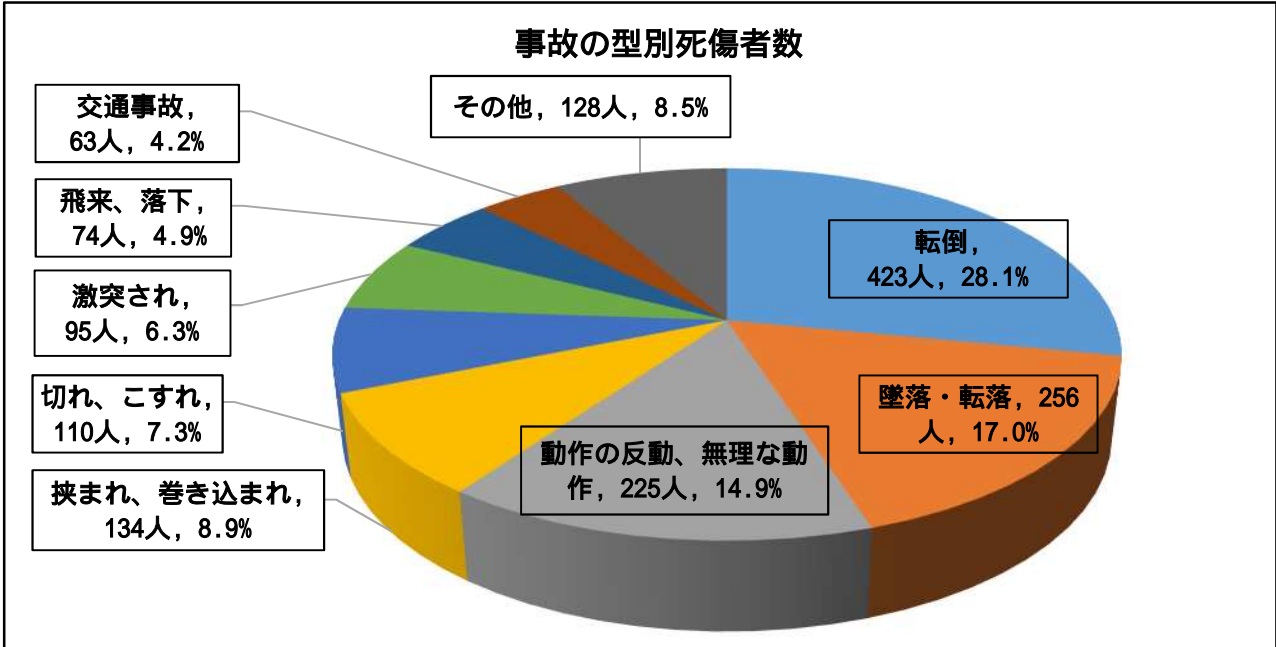
主要産業別死傷者数（休業4日以上）



建設業	188	204	148	189	189	180	198	233	186	215	193
製造業	299	268	286	303	276	277	280	302	315	303	306
林業	105	84	99	71	67	73	88	76	73	85	67
運輸交通業	118	159	145	137	133	157	161	145	162	166	135
第三次産業	497	514	509	524	533	544	654	669	695	736	698
上記以外の業種	80	70	98	108	100	103	101	104	112	110	109
全産業	1,287	1,299	1,285	1,332	1,298	1,334	1,482	1,529	1,543	1,615	1,508

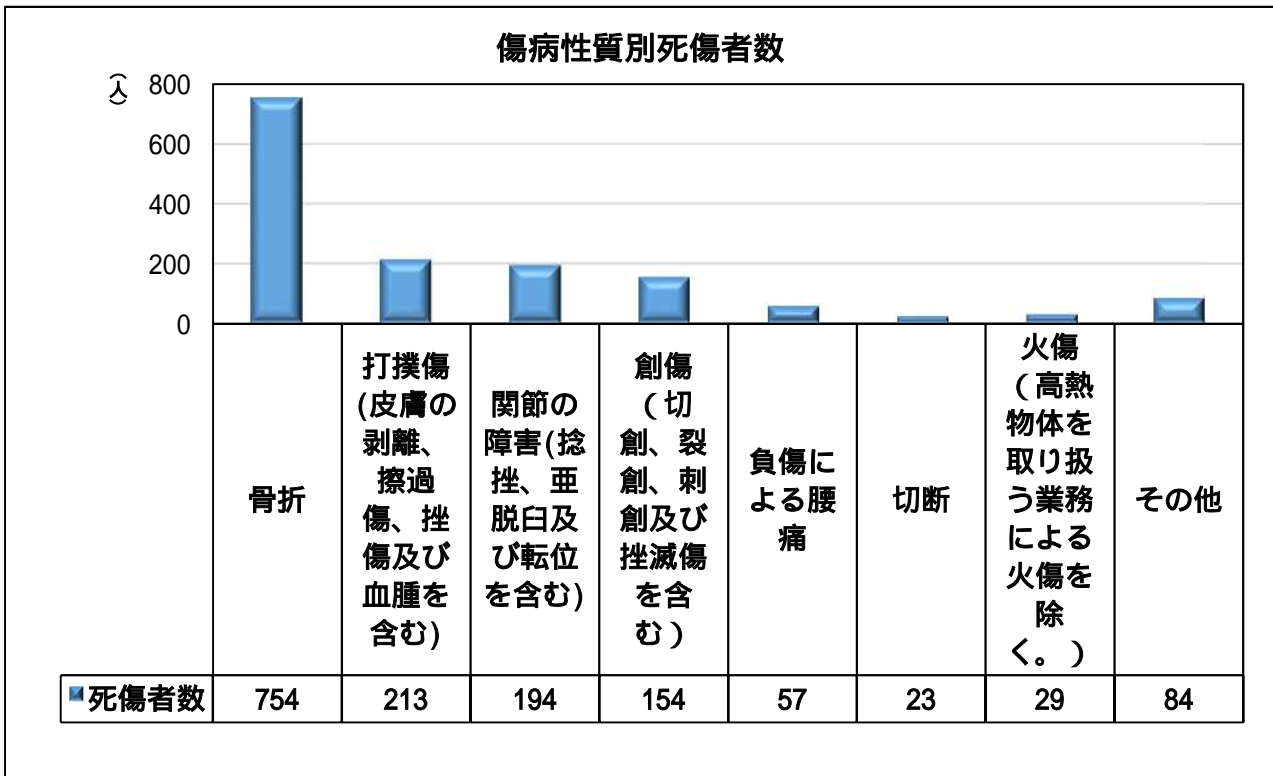
( 2 ) 事故の型別 死傷災害発生状況 ( 令和 5 年 )

事故の型別は、「転倒」が 423 人(28.1%)で最も多く、次いで「墜落、転落」256 人(17.0%)、「動作の反動、無理な動作」225 人(14.9%)、「はさまれ、巻き込まれ」134 人(8.9%)、「切れ、こすれ」110 人(7.3%)、「激突され」95 人(6.3%)の順となっている。



( 3 ) 傷病性質別 死傷災害発生状況 ( 令和 5 年 )

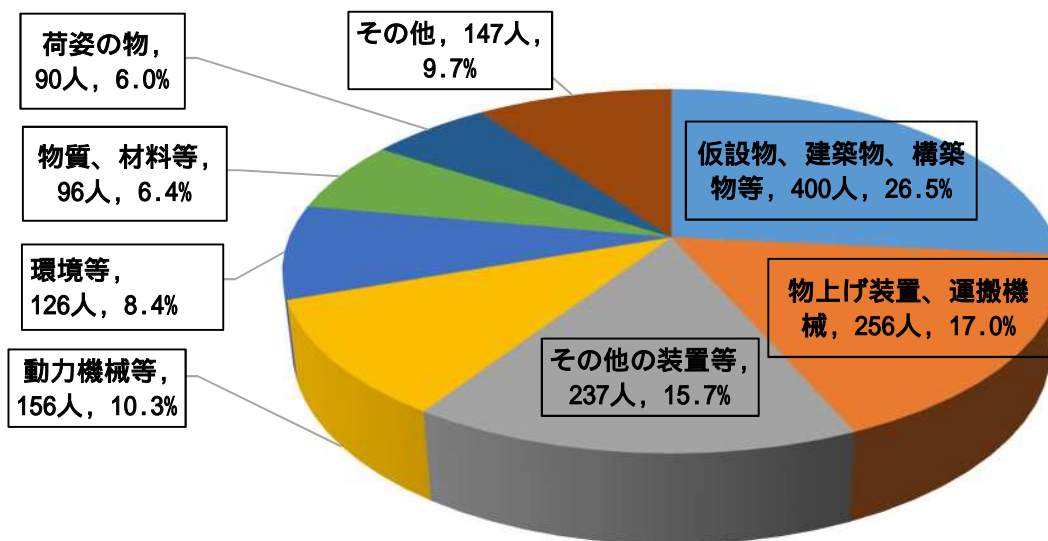
傷病名別では「骨折」が 754 人で最も多く、全体の半数を占めている。



(4) 起因物別 死傷災害発生状況 (令和5年)

起因物(災害をもたらす原因となった機械・設備・環境等)では、通路や作業床、歩み板等の「仮設物、建築物、構築物」が400人(26.5%)で最も多く、次いでクレーン、トラック等の「物上げ装置、運搬機械」が256人(17.0%)、人力機械工具や用具等の「その他の装置」が237人(15.7%)、加工用機械や建設機械等の「動力機械等」156人(10.3%)、「環境等」126人(8.4%)、「物質、材料」96人(6.4%)、「荷姿の物」90人(6.0%)の順となっている。

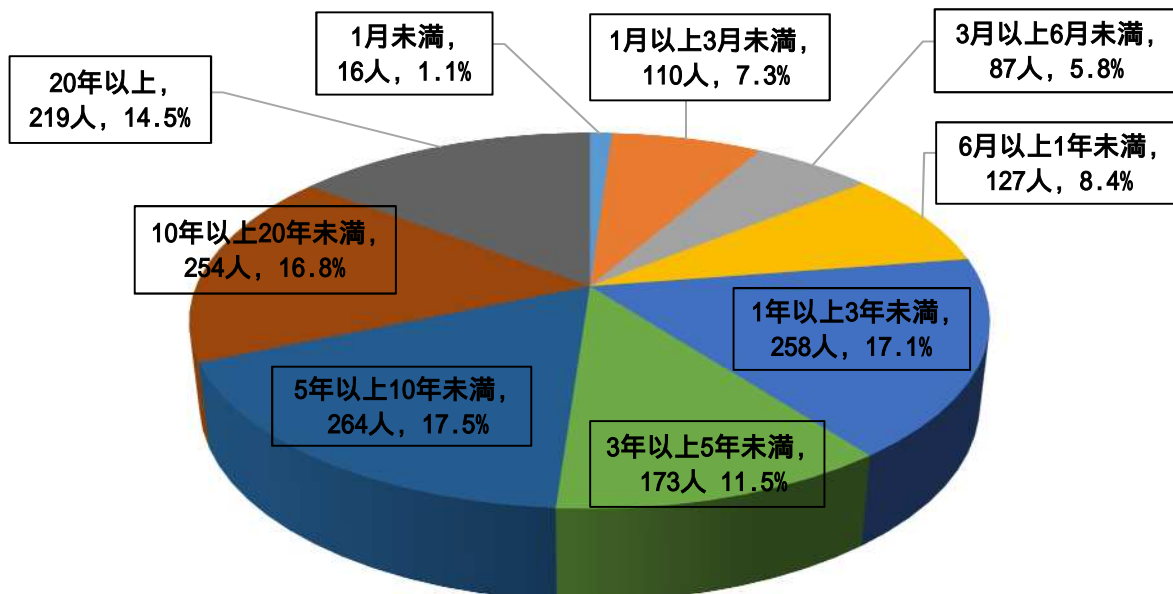
起因物別死傷者数



(5) 経験期間別 死傷災害発生状況 (令和5年)

経験期間5年以上の労働者による災害が全体のほぼ半数(48.9%)を占めている。経験期間1年未満の労働者による災害は全体の23%となっている。

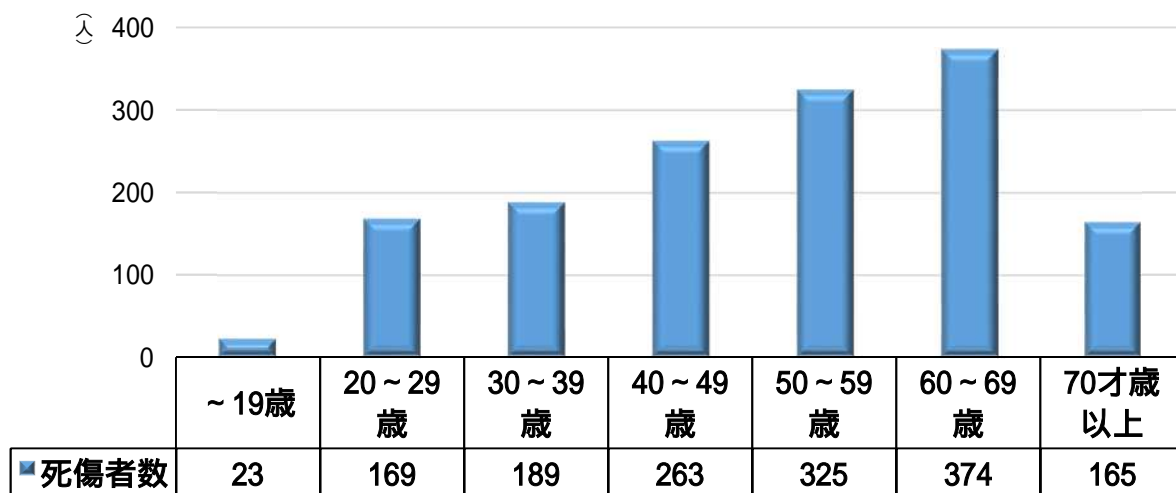
経験年数別死傷者数



( 6 ) 年齢層別 死傷災害発生状況 ( 令和 5 年 )

年齢層別では「60才以上」が539人で全体の35.7%を占めている。

年齢層別別死傷者数

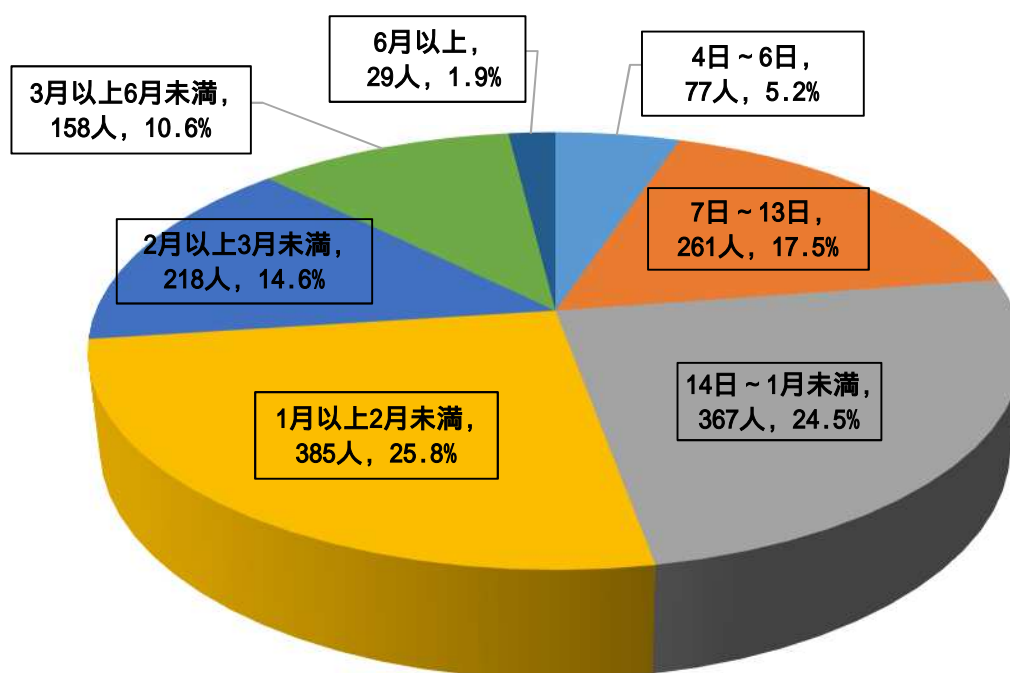


( 7 ) 休業見込期間別 労働災害発生状況 ( 令和 5 年 )

休業災害 ( 死亡を除く休業 4 日以上 の災害 ) 1,495 人について、休業見込期間別に比較したところ、「1 月以上 2 月未満」が 385 人 ( 25.8% ) で最も多い。

また、休業見込期間が 1 月以上の災害件数は 790 人で、全体の半数以上を占めている。

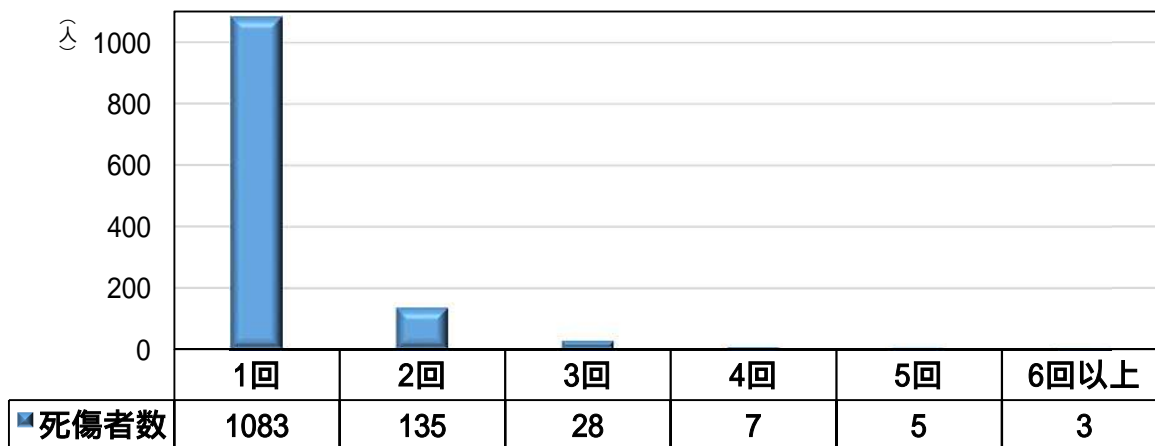
休業見込期間別死傷者数



( 8 ) 事故発生回数別 死傷災害発生状況 ( 令和 5 年 )

令和 5 年に県内で発生した死傷災害のうち、1 回発生 of 事業場は 1,083 事業場 ( 72% ) で、2 回以上発生した事業場は 178 事業場であった。  
死傷災害が最も多発した事業場では 1 年間に 6 回発生している。

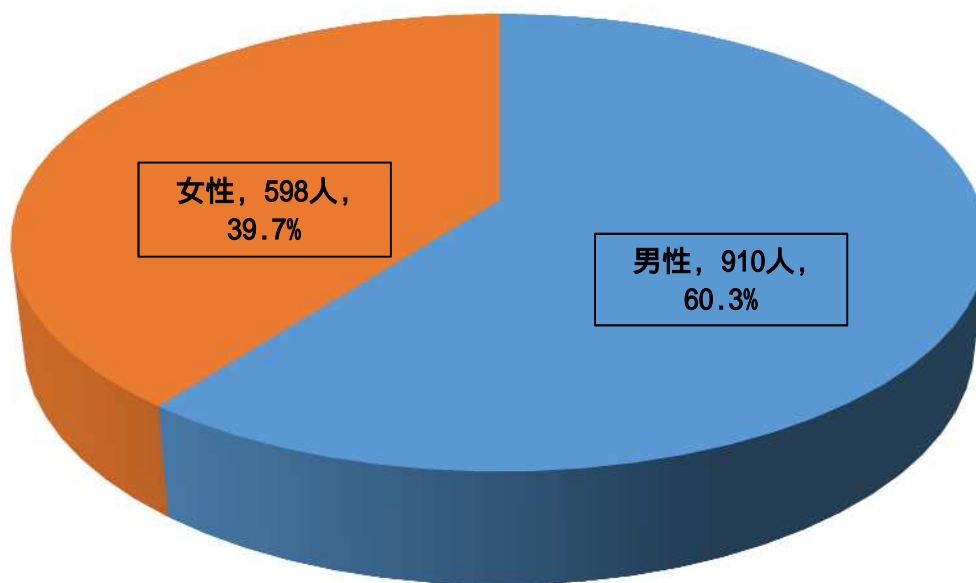
災害発生回数別事業場数



( 9 ) 男女別 死傷災害発生状況 ( 令和 5 年 )

男女別では、男性の死傷者数が全体の 60.3% を占めている。

男女別死傷者数



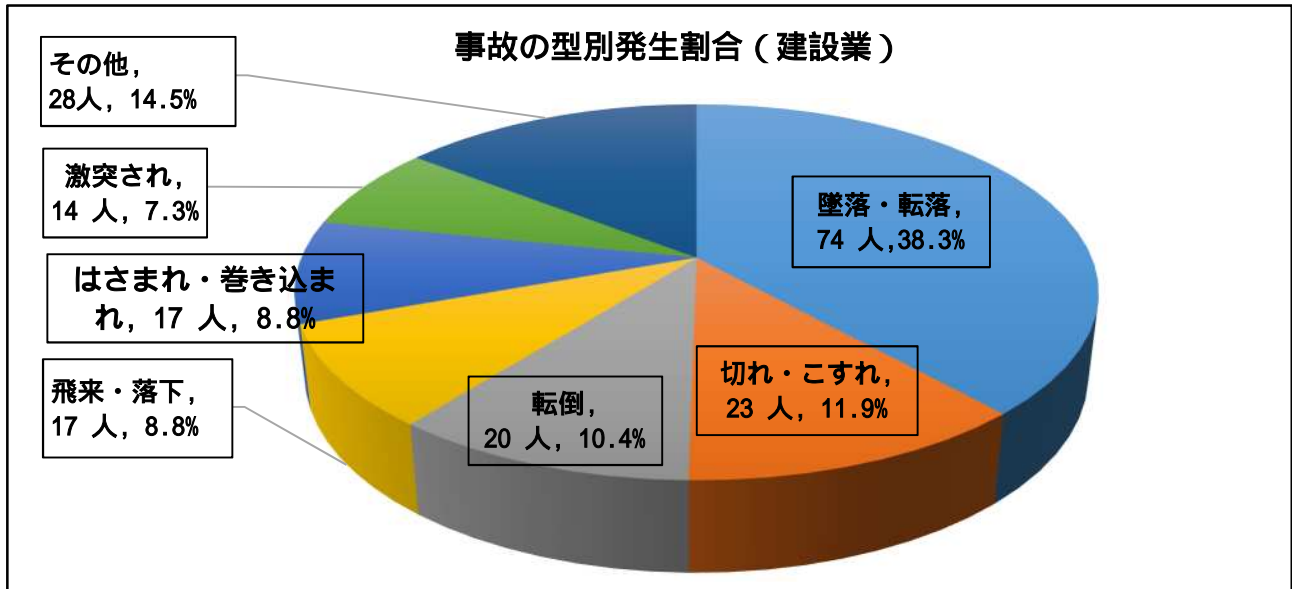
### 3 . 業種別の労働災害の特徴について

#### ( 1 ) 建設業の労働災害発生状況(令和 5 年)

死亡者数は 1 人で、前年比 3 人 ( 75% ) 減少。

死傷者数は 193 人で、前年比で 22 人 ( 10.2% ) 減少。

事故の型別では、「墜落・転落」が最も多く 38.3% を占めている。

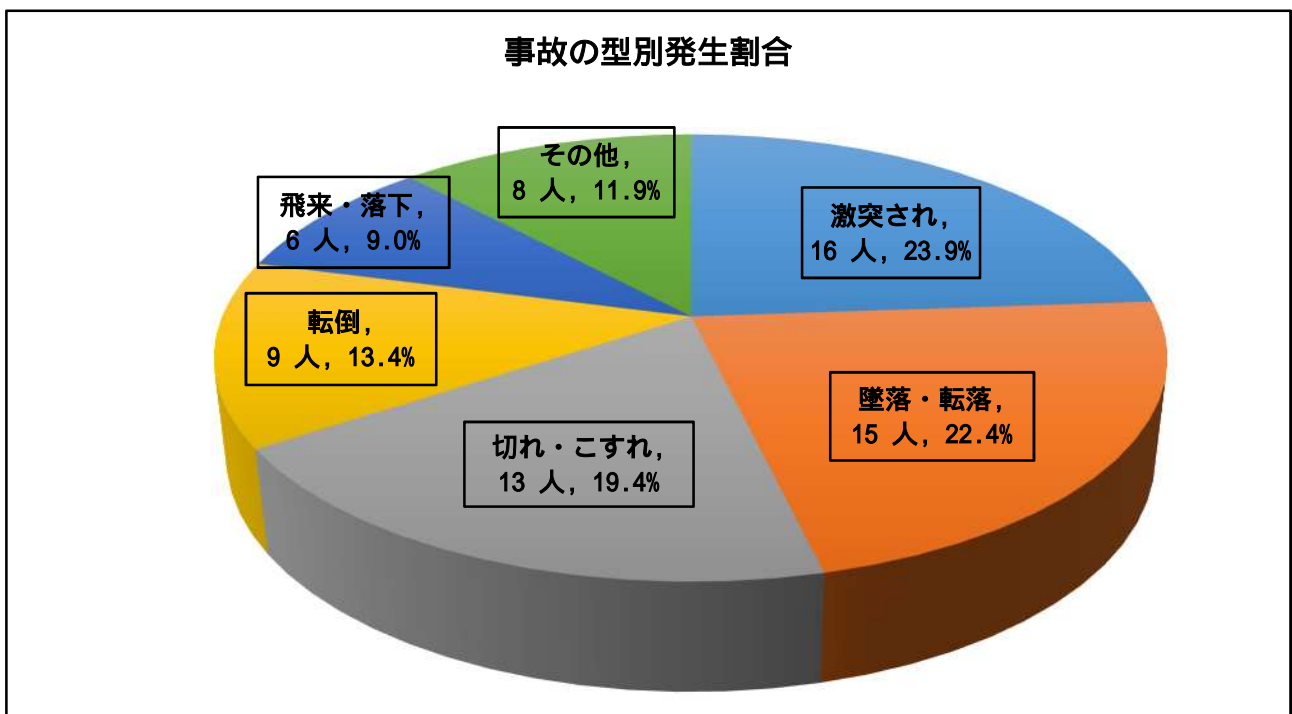


#### ( 2 ) 林業の労働災害発生状況 ( 令和 5 年 )

死亡者数は 3 人で、前年比 2 人 ( 40% ) 減少。

死傷者数は 67 人で、前年比で 18 人 ( 21.2% ) 減少。

事故の型別では、「激突され」が最も多く、23.9% を占めている。





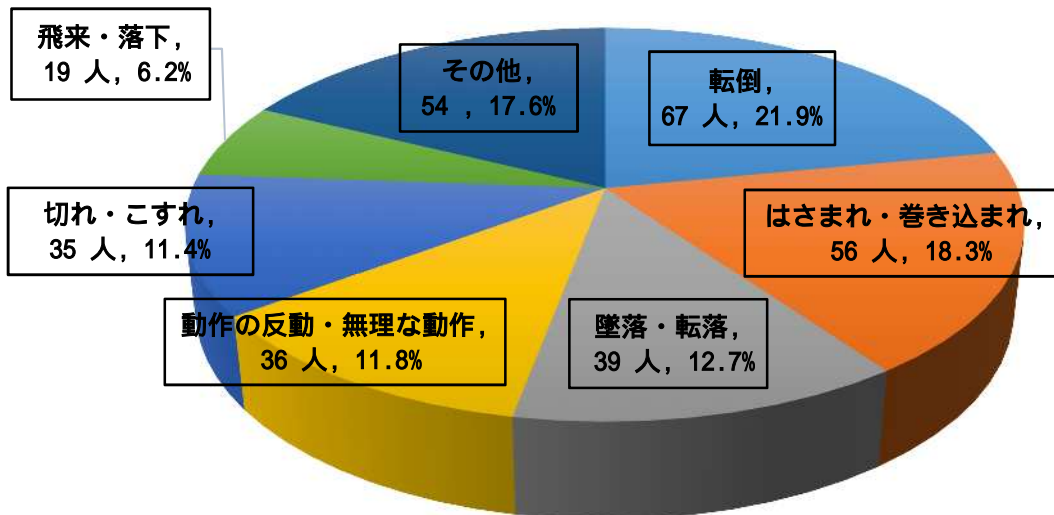
### ( 3 ) 製造業の労働災害発生状況 ( 令和 5 年 )

死亡者数は 3 人で、前年比 1 人 ( 25% ) 減少。

死傷者数は、306 人で、前年比で 3 人 ( 1% ) 増加。

事故の型別では、「転倒」が最も多く 21.9% を占めている。

#### 事故の型別発生割合 ( 製造業 )



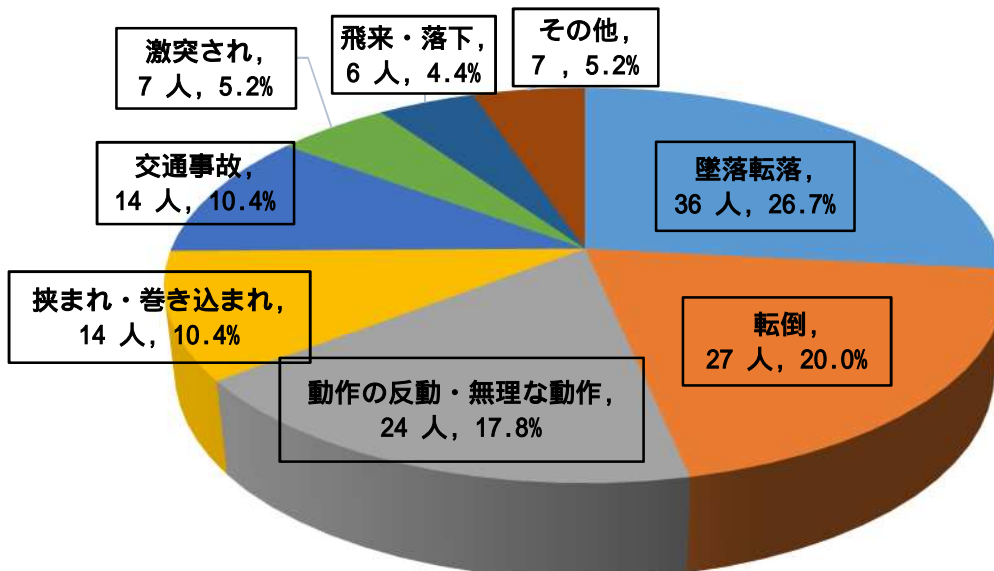
### ( 4 ) 運輸交通業の労働災害発生状況 ( 令和 5 年 )

死亡者数は 0 人で、前年比 2 人減少。

死傷者数は 135 人で、前年比で 31 人 ( 18.7% ) 減少。

事故の型別では、「墜落・転落」が 26.7% を占めている。

#### 事故の型別発生割合 ( 運輸・交通業 )



### (5) 第三次産業の労働災害発生状況（令和5年）

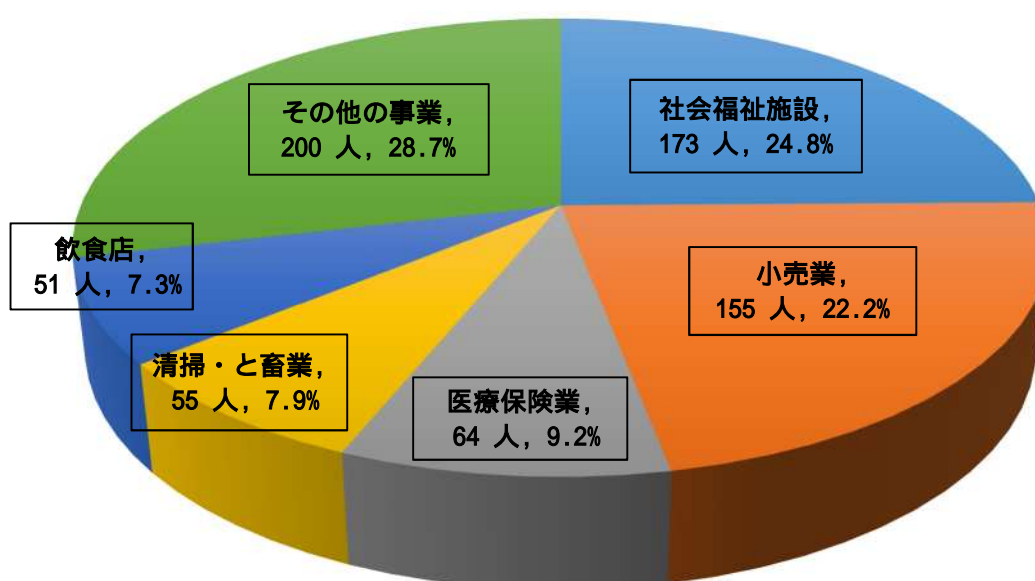
死亡者数は5人で、前年比3人の増加。

内訳は、商業2人、金融業1人、廃棄物処理業1人、警備業1人となっている。

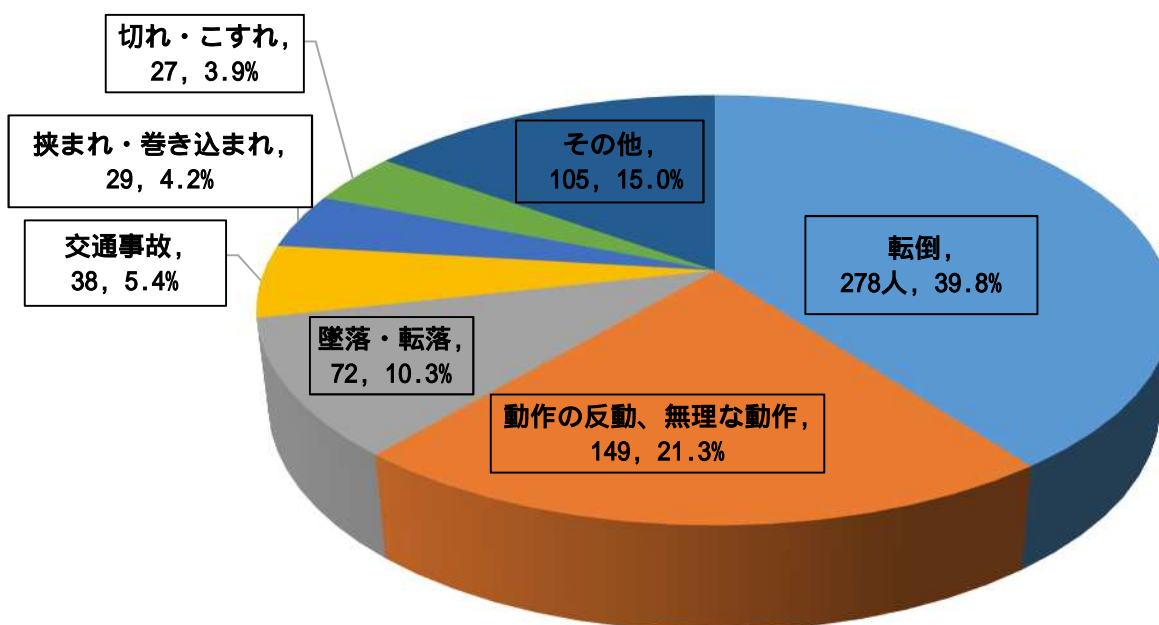
死傷者数は698人で、前年比で38人（5%）減少。

事故の型別では、「転倒」及び「動作の反動・無理な動作」等の労働者の作業行動に起因する労働災害が6割を超える。

#### 業種別発生割合（第三次産業）



#### 事故の型別発生割合（第三次産業）



## 4 . 最近の労働災害の特徴について

### (1) 行動災害の増加

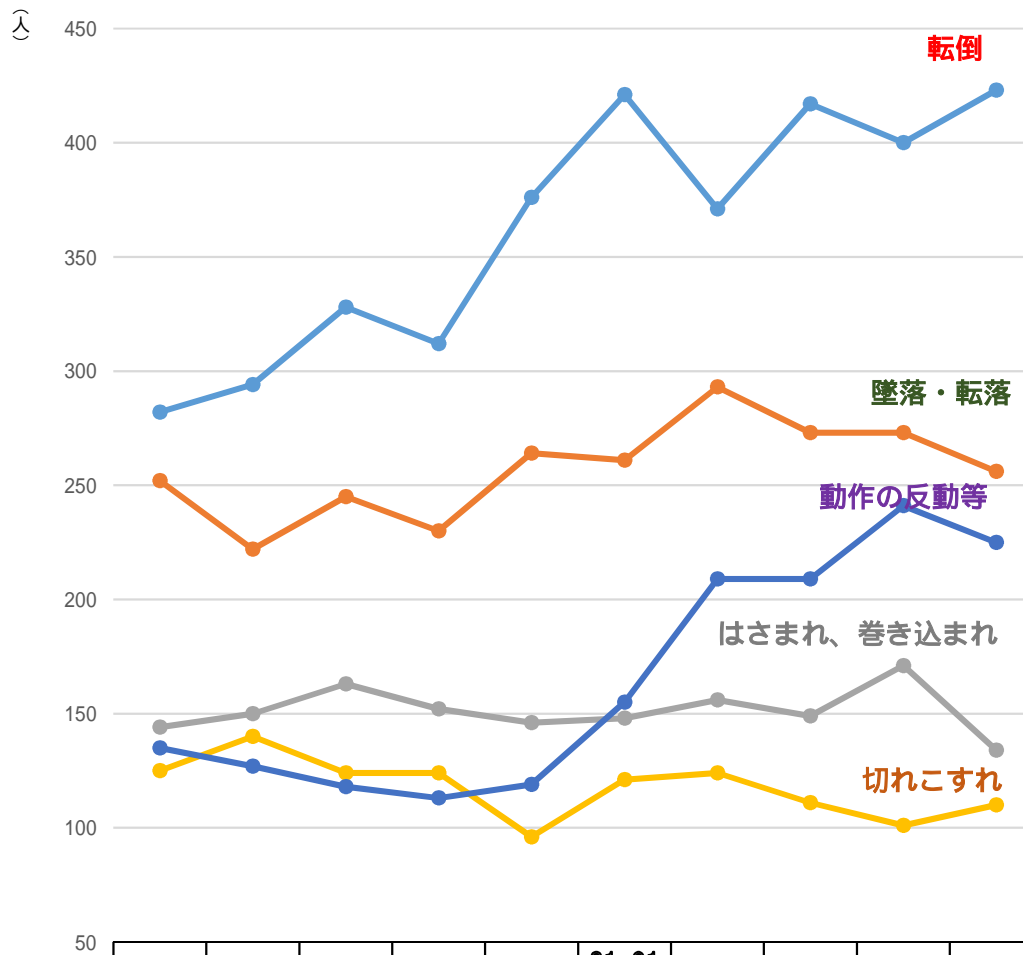
過去10年間に県内(全業種)で発生した死傷災害を事故の型別で分類した推移を見ると「転倒」が常に最多で、かつ増加傾向にあり、令和5年の発生数は423人で全体の28.1%を占める。

また、「転倒」による死傷者数は、令和2年に減少したものの、令和3年以降、年間400人以上で推移している。

「動作の反動、無理な動作」が平成30年以降増加傾向にある。

「墜落・転落」は、近年、減少傾向にある。

死傷災害発生件数の推移(平成26年～令和5年)



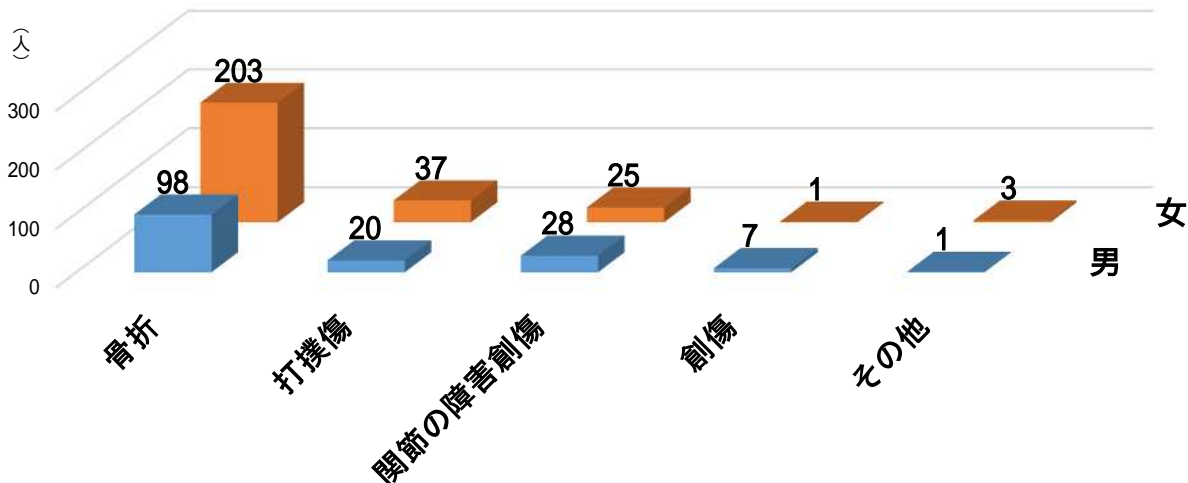
	26年	27年	28年	29年	30年	31・01年	02年	03年	04年	05年
● 転倒	282	294	328	312	376	421	371	417	400	423
● 墜落・転落	252	222	245	230	264	261	293	273	273	256
● はさまれ、巻き込まれ	144	150	163	152	146	148	156	149	171	134
● 切れこすれ	125	140	124	124	96	121	124	111	101	110
● 動作の反動等	135	127	118	113	119	155	209	209	241	225

( 1 ) 行動災害の増加 ( 令和 5 年 転倒災害 )

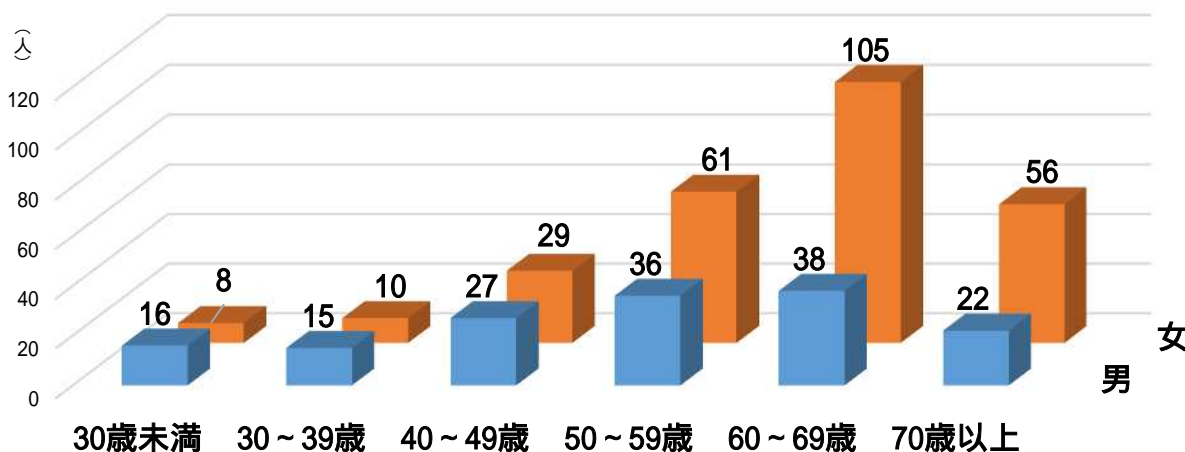
転倒災害による傷病性質は「骨折」が 301 人 ( 男 : 98 人、女 : 203 人 ) で最も多く、全体の 71.2% を占めている。

高年齢になるほど転倒災害が多く発生し、特に女性の高年齢労働者に多発している。60 歳以上の男性 ( 60 人 ) の場合は、30 歳未満労働者 ( 16 人 ) の 3.8 倍発生に対し、60 歳以上の女性 ( 161 人 ) は 30 歳未満労働者 ( 8 人 ) の 20.1 倍発生している。

傷病性質別発生件数 ( 転倒災害 )



年齢別発生件数 ( 転倒災害 )

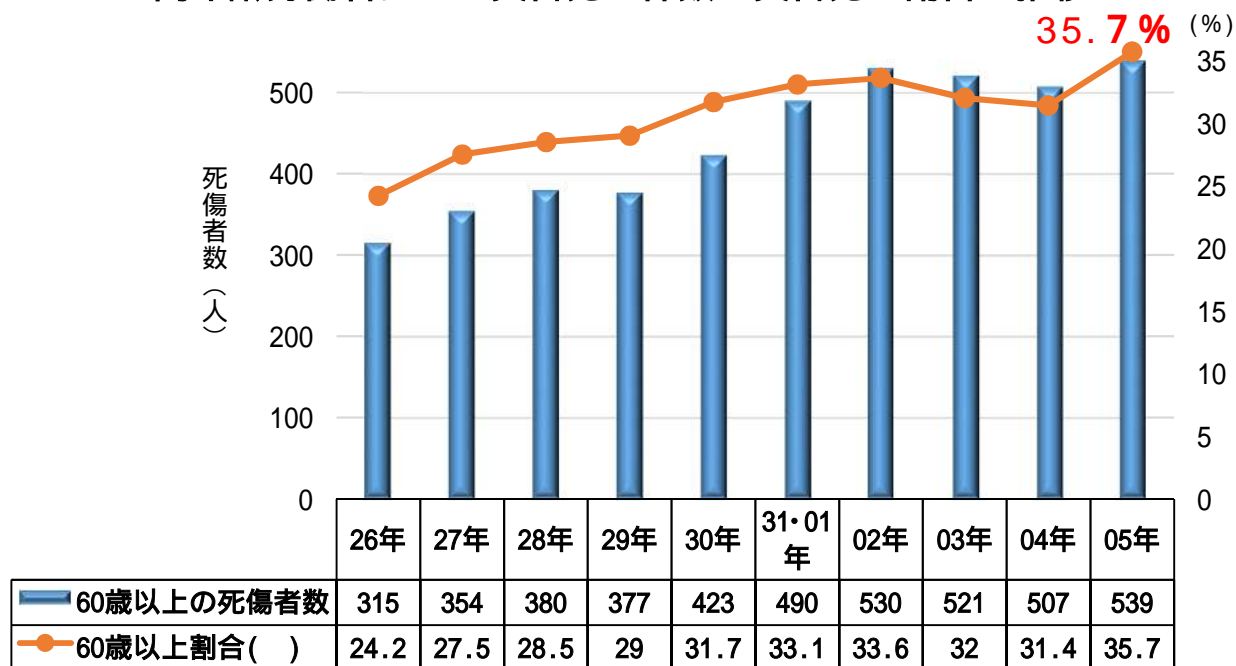


## (2) 高齢労働者の労働災害の増加

死傷災害全体の中で高齢労働者（60歳以上）の死傷災害が占める割合は、平成30年以降、全死傷者数の3割を超え、高止まりが続いている。

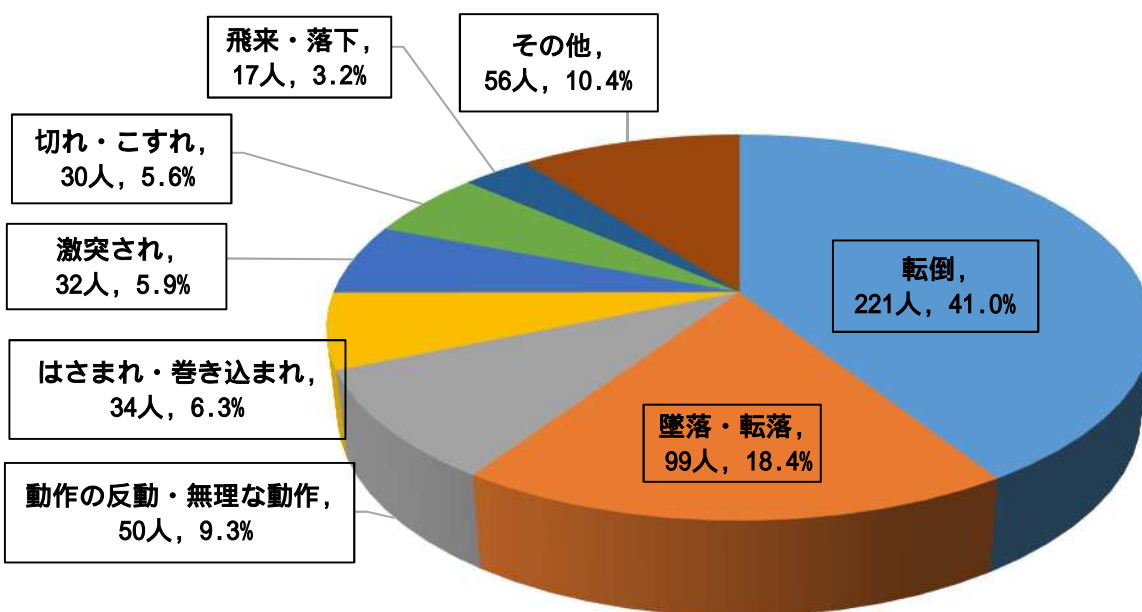
令和5年に発生した高齢労働者による死傷災害539人について、事故の型別に分類したところ、転倒が最も多く全体の41%を占めている。

### 高齢労働者による災害発生件数と災害発生割合の推移



( ) 災害全体の中で被災者が60歳以上の災害が占める割合(%)

### 事故の型別発生割合（令和5年 高齢者）



## 5 . 外国人労働者の災害発生状況

### ( 1 ) 外国人労働者の労働災害発生状況の推移

平成 30 年以降に県内（全業種）で発生した外国人労働者の労働災害は増加傾向にあり、令和 5 年の死傷者数は、前年比 18 人（82%）の大幅増加となった。

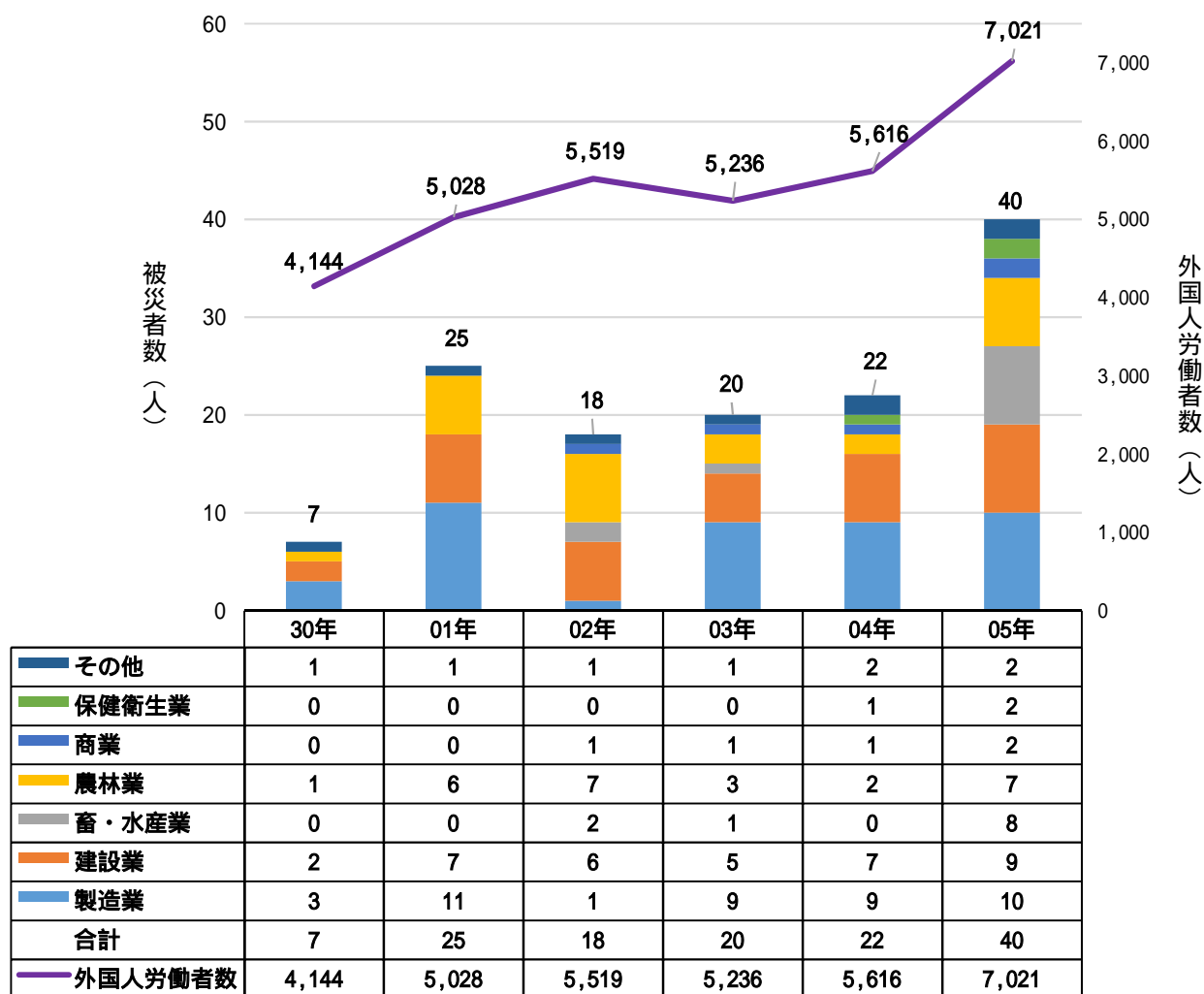
被災者を事故の型別で分類したところ、「はさまれ・巻き込まれ」が最も多く全体の 30%を占めている。

また、業種別では、製造業が 10 人（25.0%）で最も多く、次いで建設業 9 人（22.5%）畜・水産業 8 人（20.0%）の順となっている。

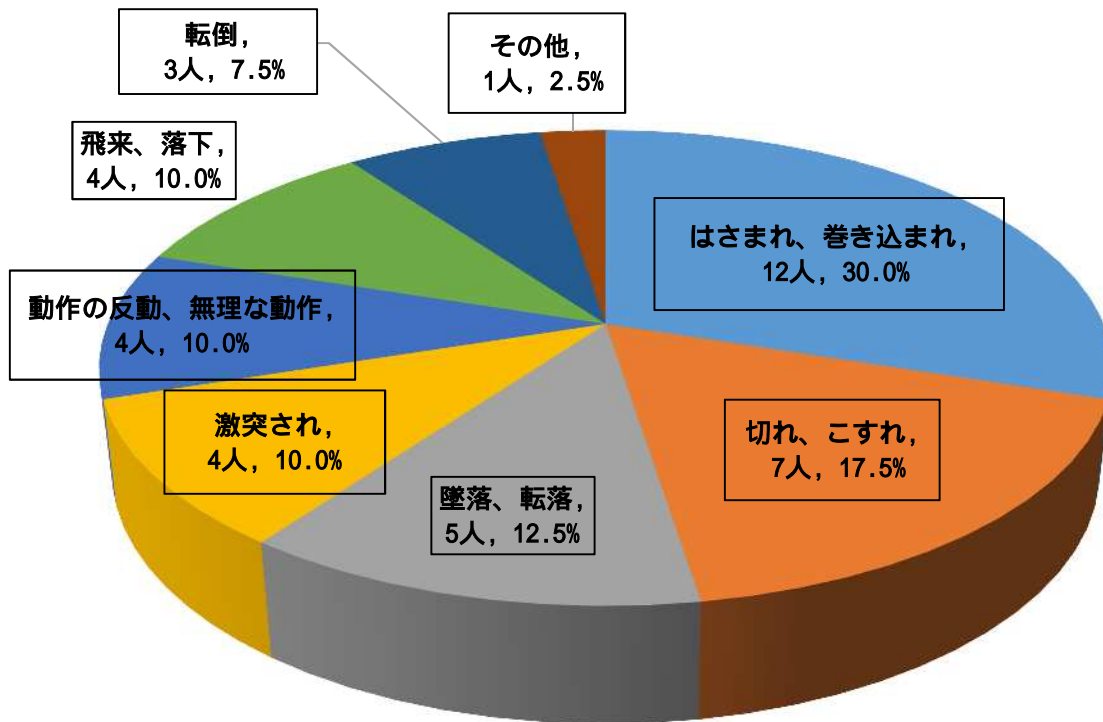
在留資格別では、技能実習が 22 人（55.0%）で最も多く、次いで特定技能 9 人（22.5%）、特定活動 3 人（7.5%）、の順となっている。

国籍別では、ベトナムが 20 人（50.0%）で最も多く、次いでインドネシア 7 人（17.5%）、フィリピン 5 人（12.5%）、ミャンマー 4 人（10.0%）の順となっている。

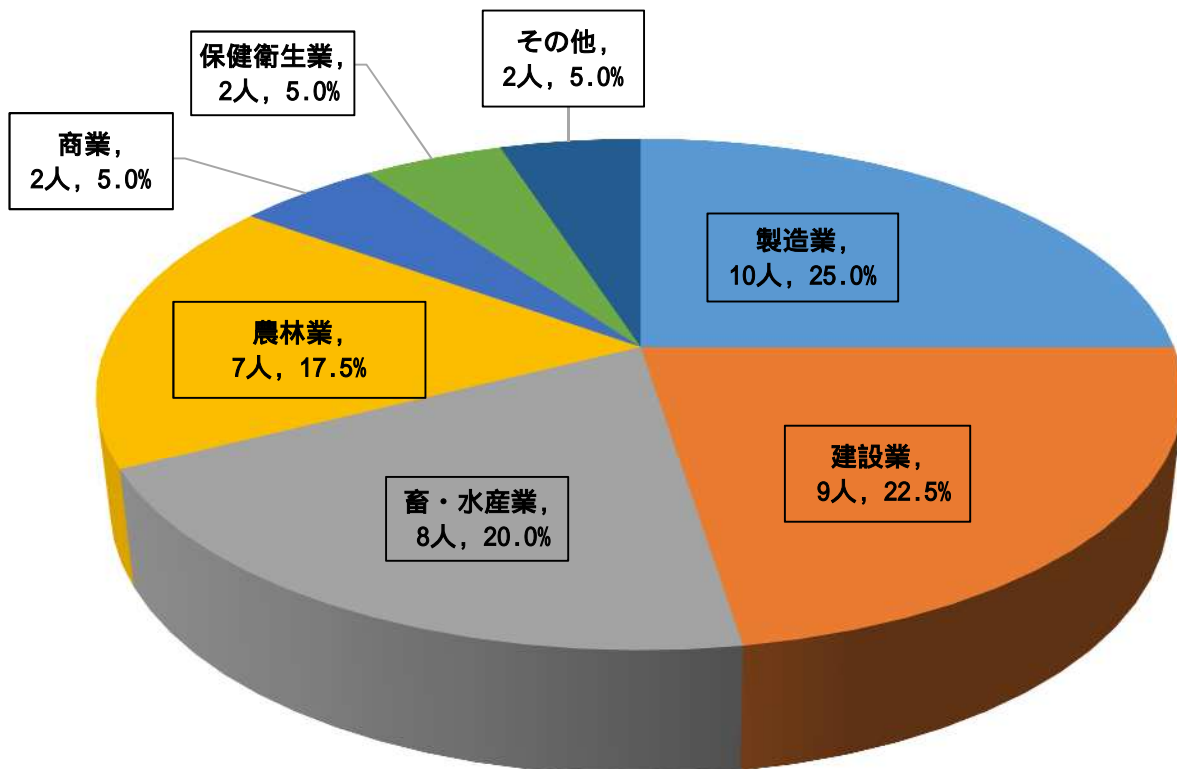
### 外国人労働数及び死傷者数の推移



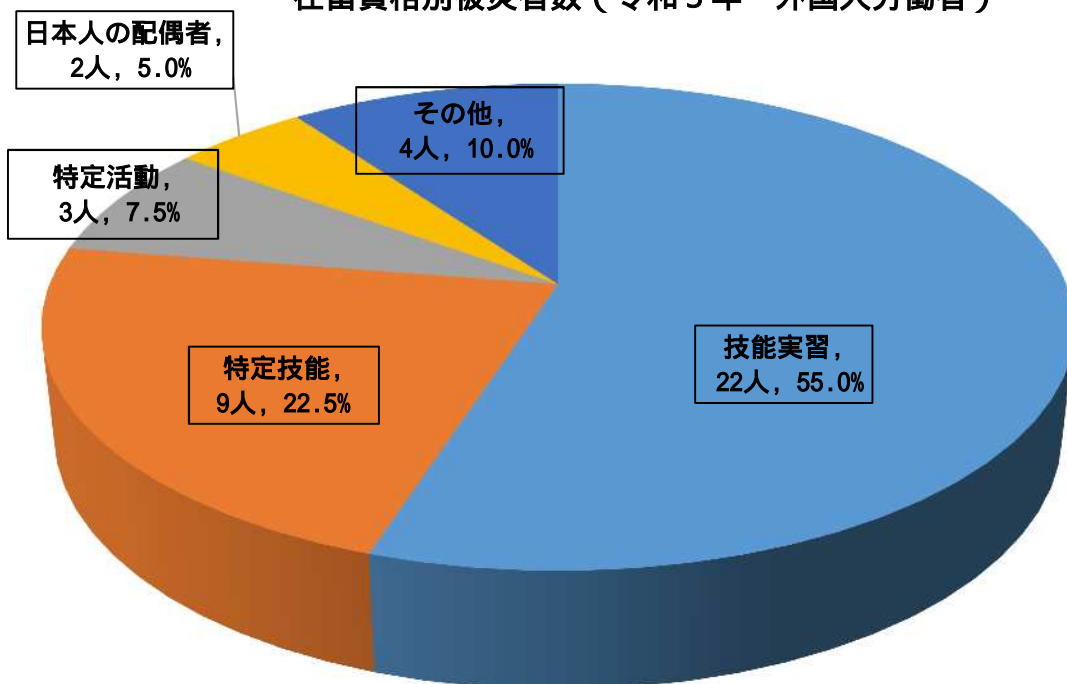
事故の型別発生件数（令和5年 外国人労働者）



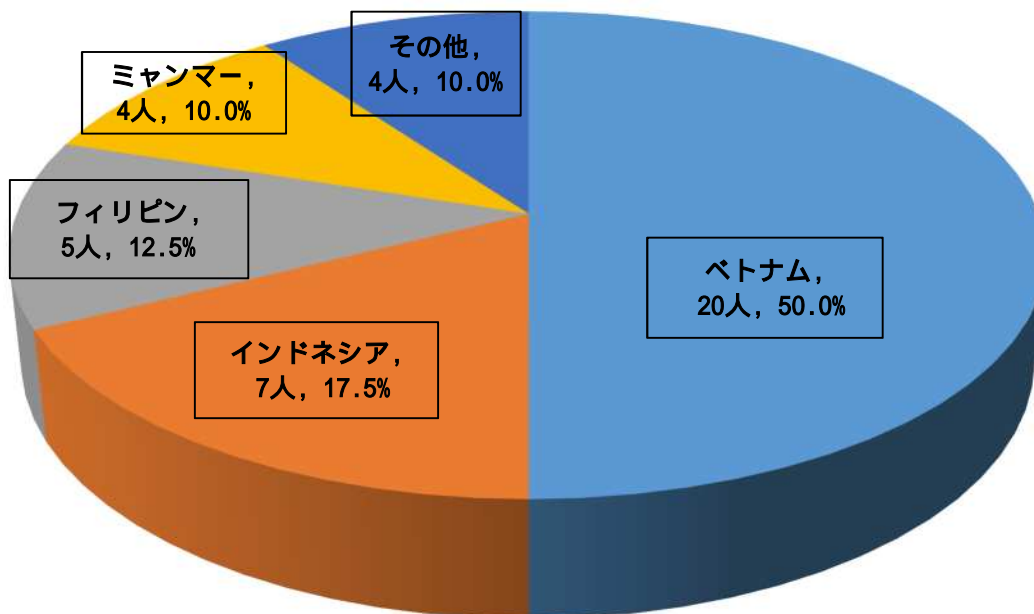
業種別災害発生件数（令和5年 外国人労働者）



在留資格別被災者数（令和5年 外国人労働者）



国籍別被災者数（令和5年 外国人労働者）





業種別・署別災害発生状況(休業4日以上)  
(新型コロナウイルス感染症を除く)

宮崎労働局

統計集計日 ※上段

死亡災害：令和4年12末日現在

休業災害：令和4年12末日現在

3月末日 ※下段

死亡災害：令和5年12末日現在

休業災害：令和5年12末日現在

速報値

	合計			宮崎署			延岡署			都城署			日南署		
	死亡	休業	計	死亡	休業	計	死亡	休業	計	死亡	休業	計	死亡	休業	計
<b>01 製造業</b>	4	299	303	1	111	112	1	63	64	2	100	102		25	25
	<b>3</b>	<b>303</b>	<b>306</b>		<b>131</b>	<b>131</b>		<b>62</b>	<b>62</b>	<b>2</b>	<b>93</b>	<b>95</b>	<b>1</b>	<b>17</b>	<b>18</b>
01食料品		138	138		66	66		21	21		45	45		6	6
	<b>2</b>	<b>132</b>	<b>134</b>		<b>67</b>	<b>67</b>		<b>18</b>	<b>18</b>	<b>1</b>	<b>42</b>	<b>43</b>	<b>1</b>	<b>5</b>	<b>6</b>
04木材・木製品	1	66	67		8	8		23	23	1	24	25		11	11
		<b>48</b>	<b>48</b>		<b>6</b>	<b>6</b>		<b>18</b>	<b>18</b>		<b>17</b>	<b>17</b>		<b>7</b>	<b>7</b>
09窯業土石		17	17		1	1		7	7		5	5		4	4
		<b>17</b>	<b>17</b>		<b>7</b>	<b>7</b>		<b>5</b>	<b>5</b>		<b>4</b>	<b>4</b>		<b>1</b>	<b>1</b>
12金属製品		11	11		2	2		3	3		5	5		1	1
		<b>17</b>	<b>17</b>		<b>6</b>	<b>6</b>		<b>3</b>	<b>3</b>		<b>8</b>	<b>8</b>			
13～15機械器具	1	17	18	1	10	11		5	5		1	1		1	1
		<b>25</b>	<b>25</b>		<b>13</b>	<b>13</b>		<b>4</b>	<b>4</b>		<b>8</b>	<b>8</b>			
<b>02 鉱業</b>		3	3		1	1					1	1		1	1
		<b>3</b>	<b>3</b>		<b>1</b>	<b>1</b>		<b>1</b>	<b>1</b>		<b>1</b>	<b>1</b>			
<b>03 建設業</b>	4	211	215	1	83	84	1	48	49	2	62	64		18	18
	<b>1</b>	<b>192</b>	<b>193</b>		<b>78</b>	<b>78</b>	<b>1</b>	<b>47</b>	<b>48</b>		<b>53</b>	<b>53</b>		<b>14</b>	<b>14</b>
01土木工事	2	61	63		22	22		14	14	2	19	21		6	6
	<b>1</b>	<b>62</b>	<b>63</b>		<b>20</b>	<b>20</b>	<b>1</b>	<b>17</b>	<b>18</b>		<b>18</b>	<b>18</b>		<b>7</b>	<b>7</b>
02建築工事	2	101	103	1	45	46	1	20	21		30	30		6	6
		<b>79</b>	<b>79</b>		<b>35</b>	<b>35</b>		<b>20</b>	<b>20</b>		<b>20</b>	<b>20</b>		<b>4</b>	<b>4</b>
(02-02 木造建築)		16	16		7	7		2	2		7	7			
		<b>18</b>	<b>18</b>		<b>7</b>	<b>7</b>		<b>3</b>	<b>3</b>		<b>5</b>	<b>5</b>		<b>3</b>	<b>3</b>
<b>04 運輸交通業</b>	2	164	166	1	80	81	1	26	27		55	55		3	3
		<b>135</b>	<b>135</b>		<b>62</b>	<b>62</b>		<b>22</b>	<b>22</b>		<b>48</b>	<b>48</b>		<b>3</b>	<b>3</b>
03道路貨物運送	2	144	146	1	64	65	1	25	26		52	52		3	3
		<b>125</b>	<b>125</b>		<b>57</b>	<b>57</b>		<b>21</b>	<b>21</b>		<b>45</b>	<b>45</b>		<b>2</b>	<b>2</b>
<b>05 貨物取扱業</b>		15	15		8	8		4	4		3	3			
		<b>4</b>	<b>4</b>		<b>2</b>	<b>2</b>					<b>2</b>	<b>2</b>			
<b>06 農林業</b>	5	111	116		26	26	2	45	47	2	26	28	1	14	15
	<b>3</b>	<b>105</b>	<b>108</b>		<b>30</b>	<b>30</b>	<b>1</b>	<b>31</b>	<b>32</b>		<b>30</b>	<b>30</b>	<b>2</b>	<b>14</b>	<b>16</b>
02林業	5	80	85		12	12	2	43	45	2	11	13	1	14	15
	<b>3</b>	<b>64</b>	<b>67</b>		<b>12</b>	<b>12</b>	<b>1</b>	<b>28</b>	<b>29</b>		<b>10</b>	<b>10</b>	<b>2</b>	<b>14</b>	<b>16</b>
<b>07 畜産・水産業</b>		61	61		14	14		10	10		28	28		9	9
	<b>1</b>	<b>60</b>	<b>61</b>	<b>1</b>	<b>10</b>	<b>11</b>		<b>13</b>	<b>13</b>		<b>30</b>	<b>30</b>		<b>7</b>	<b>7</b>
<b>08 商業</b>	2	219	221	1	106	107	1	40	41		63	63		10	10
	<b>2</b>	<b>206</b>	<b>208</b>	<b>2</b>	<b>102</b>	<b>104</b>		<b>39</b>	<b>39</b>		<b>51</b>	<b>51</b>		<b>14</b>	<b>14</b>
02小売		163	163		84	84		31	31		39	39		9	9
	<b>2</b>	<b>153</b>	<b>155</b>	<b>2</b>	<b>72</b>	<b>74</b>		<b>36</b>	<b>36</b>		<b>34</b>	<b>34</b>		<b>11</b>	<b>11</b>
<b>09 金融・広告業</b>		15	15		8	8		3	3		3	3		1	1
	<b>1</b>	<b>6</b>	<b>7</b>		<b>3</b>	<b>3</b>					<b>1</b>	<b>3</b>		<b>4</b>	
<b>10 映画・演劇業</b>		1	1								1	1			
<b>11 通信業</b>		19	19		8	8		3	3		6	6		2	2
		<b>8</b>	<b>8</b>		<b>2</b>	<b>2</b>		<b>2</b>	<b>2</b>		<b>2</b>	<b>2</b>		<b>2</b>	<b>2</b>
<b>12 教育・研究業</b>		15	15		12	12		2	2					1	1
		<b>12</b>	<b>12</b>		<b>8</b>	<b>8</b>		<b>1</b>	<b>1</b>		<b>2</b>	<b>2</b>		<b>1</b>	<b>1</b>
<b>13 保健衛生業</b>		241	241		110	110		55	55		55	55		21	21
		<b>238</b>	<b>238</b>		<b>111</b>	<b>111</b>		<b>44</b>	<b>44</b>		<b>67</b>	<b>67</b>		<b>16</b>	<b>16</b>
02社会福祉施設		170	170		78	78		37	37		40	40		15	15
		<b>173</b>	<b>173</b>		<b>83</b>	<b>83</b>		<b>33</b>	<b>33</b>		<b>48</b>	<b>48</b>		<b>9</b>	<b>9</b>
<b>14 接客娯楽業</b>		94	94		51	51		25	25		14	14		4	4
		<b>97</b>	<b>97</b>		<b>48</b>	<b>48</b>		<b>23</b>	<b>23</b>		<b>24</b>	<b>24</b>		<b>2</b>	<b>2</b>
02飲食店		49	49		25	25		13	13		9	9		2	2
		<b>51</b>	<b>51</b>		<b>23</b>	<b>23</b>		<b>12</b>	<b>12</b>		<b>14</b>	<b>14</b>		<b>2</b>	<b>2</b>
<b>15 清掃・と畜業</b>		71	71		43	43		13	13		15	15			
	<b>1</b>	<b>54</b>	<b>55</b>	<b>1</b>	<b>32</b>	<b>33</b>		<b>7</b>	<b>7</b>		<b>13</b>	<b>13</b>		<b>2</b>	<b>2</b>
(01-01 ビルメン)		42	42		32	32		5	5		5	5			
		<b>32</b>	<b>32</b>		<b>18</b>	<b>18</b>		<b>4</b>	<b>4</b>		<b>8</b>	<b>8</b>		<b>2</b>	<b>2</b>
<b>16 官公署</b>															
<b>17 その他の事業</b>		59	59		26	26		13	13		18	18		2	2
	<b>1</b>	<b>72</b>	<b>73</b>		<b>42</b>	<b>42</b>		<b>9</b>	<b>9</b>	<b>1</b>	<b>17</b>	<b>18</b>		<b>4</b>	<b>4</b>
<b>合計</b>	17	1598	1615	4	687	691	6	350	356	6	450	456	1	111	112
	<b>13</b>	<b>1495</b>	<b>1508</b>	<b>4</b>	<b>662</b>	<b>666</b>	<b>2</b>	<b>301</b>	<b>303</b>	<b>4</b>	<b>436</b>	<b>440</b>	<b>3</b>	<b>96</b>	<b>99</b>

資料出所：労働者死傷病報告

## 令和5年 死亡災害発生状況一覧表

宮崎労働局  
令和5年12月28日現在

番号	災害発生日	事故の型	起因物	業種	性別	年齢	経験期間	災害の概要
1	1月	飛来、落下	フォークリフト	食料品製造業	男	50代	20年	フォークリフトを使用して原材料の入ったステンレス製タンクを運搬していたところ、このタンクがフォークから外れて落下し、フォークリフトの付近にいた被災者に激突した。
2	3月	墜落、転落	階段、棧橋	その他の事業	男	70代	6年	夜間の警備業務に従事していた被災者が階段下で横向きに倒れているのを、早朝に出勤した職員が発見した。被災者は意識があり、病院に搬送されたが、10日後に死亡した。
3	5月	はさまれ・巻き込まれ	射出成型機	その他の製造業	男	50代	7年	牛の飼料を固める機械の下部ラムと金型移送用レールのストッパーとの間に、被災者が頭部を挟まれた状態で、通りかかった他の作業員に見えられた。
4	6月	崩壊・倒壊	地山、岩石	土木工事業	男	60代	6年	災害復旧工事現場において、被災者がドラグショベルを運転して、法面下の床掘作業等を行っていたところ、法面が崩落し、被災者が土砂に埋もれ、死亡した。
5	7月	はさまれ・巻き込まれ	その他の乗物	食料品製造業	男	10代	4月	沖合にある生け簀で作業を行うため、被災者は、船のヘリに座った状態から生け簀の端（鉄製の歩み板）に乗り移ろうとしたところ、強風による高波で船があおられたため、脚部から海面に墜落し、体が生け簀上部の鉄柱部と船に挟まれ、死亡した。
6	9月	墜落、転落	移動式クレーン	清掃・と畜業	男	60代	1年	被災者が昨日から帰宅しないと親族から事業場へ連絡があり、担当者が事業場内を捜索したところ、小型移動式クレーンの運転席で頭部から血を流し倒れている被災者を見つけた。被災者は、災害前日、当該クレーン荷台の積荷の荷卸し作業があり、同僚は、当該クレーンの後方で倒れ、自立した被災者を目撃していた。
7	9月	墜落、転落	整地・運搬・積み込み用機械	畜産業	男	40代	3月	私道の路肩から約2m下で仰向けに倒れていたトラクター・ショベルの下敷きになっている被災者を同僚が発見した。被災者は、災害当日、トラクター・ショベルで道路を整地するよう指示を受けていたが、資格を有していなかった。
8	9月	交通事故	バイク	小売業	男	60代	1年	配達用の新聞を積んだ原動機付き自転車に乗り、町道を走行していたところ、鹿と衝突した。
9	10月	交通事故	バイク	金融業	女	50代	5年	スーパーの駐車場で、被災者は、原動機付き自転車を運転し、店の出入口付近に向かっていたところ、駐車場に入ってきた乗用車に衝突された。
10	10月	交通事故	乗用車	小売業	男	40代	16年	被災者は、道路脇に設置されている自動販売機に製品を補充する作業等を行っていたところ、軽自動車にはねられた。

# 令和5年 死亡災害発生状況一覧表

宮崎労働局  
令和5年12月28日現在

番号	災害発生月	事故の型	起因物	業種	性別	年齢	経験期間	災害の概要
11	11月	墜落、転落	伐木等機械	林業	男	60代	40年	チェーンソーで受口、追口を作った立木を被災者は、木材グラップル機を運転し、つかみ具で押し倒す作業を行っていたところ、木材グラップル機が路肩から転落し、その途中で被災者は、キャビンの外に投げ出された。
12	11月	激突され	立木等	林業	男	50代	3年	斜面で立木の伐倒作業を行った被災者は、斜面上方の林道からスイングヤーダのアームを伸ばし被災者が伐倒した伐倒木を掴んで集材するオペレーターと無線で会話をした。集材後、付近の立木に引っ掛かった状態で倒れている被災者をオペレーターが発見した。
13	12月	墜落、転落	伐木機械等	林業	男	40代	4年	同僚が横転したグラップルの近くで倒れている被災者を見つけた。災害発生前、被災者は、発見された位置から約30m離れた斜面上部でグラップルを運転し、伐倒木を集材していた。